

2. 研究ノート

京都大学北海道演習林標茶区における野生哺乳類の目撃記録

二村 一男・合田 好廣

はじめに

京都大学北海道演習林標茶区の動物相を明らかにしておくことは、1969年10月に設定された「京都大学北海道演習林鳥獣保護区」の貴重な資料となるばかりでなく、演習林の森林施業、動物の保護管理及び試験研究の面からも大いに参考になると思われる。

これまで北海道演習林における動物関連の調査は、岡部ら¹⁾の野ネズミ、山内ら²⁾及び高柳ら³⁾、松下ら⁴⁾並びに小山⁵⁾のエゾシカ害、さらに高柳ら⁷⁾のエゾシカ目撃記録、二村ら⁸⁾のエゾシカのテレメトリー調査があり、二村⁹⁾はエゾシカ、エゾヒグマの生息・痕跡に関する短報を報告した。また、鳥類相については、二村^{10),11)}による報告がある。しかし、哺乳類相全般についての報告は行われていない。そこで二村らは、現時点での動物の生息実態の把握を目的として目撃回数や動物の大まかな行動様式を調査し、目撃記録をデータブックに集積した。

1998年4月から2000年7月までの北海道演習林標茶区内と隣接地における大型動物を中心とした目撃記録に加え、1981年4月から1984年3月まで、著者の一人である二村が調査した過去の目撃記録も含めて報告する。

報告に際して、ご教示いただいた帯広畜産大学野生動物管理学研究室の藤巻裕蔵教授、動物の情報いただいた根釧西部森林管理署標茶パイロットフォレスト営林事務所の川上信一氏、標茶町五十石の飯島一雄氏、さらに動物の貴重な目撃情報を提供していただいた北海道演習林標茶区の職員の中島皇講師、谷口直文技官はじめ多くのかたがたに厚くお礼申し上げる。

調査地および調査方法

京都大学北海道演習林標茶区は、釧路湿原国立公園の北東部にあり、面積は1,447ヘクタールで、地形はゆるやかで起伏の少ない丘陵からなり、標高は50~140mである。おおまかな地形区分をすれば、面積の大半を占める起伏の少ない台地と、釧路川水系多和川の支流の南タワ川、イソチンベツ川などの谷筋にある湿地とに分けられる。南東は、旧標津線と国有林が続き、ほかの三方は、牧草地に囲まれている。

林相は、約30%が人工林であり、残りは天然林である。天然林は、ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ、キハダ、センノキ、ケヤマハンノキ、シラカンバなどを主とする落葉広葉樹林からなり、低木類では、ヤナギ類、ハシドイ、ツリバナ、マユミ、ヤマグワ、ニワトコ、ヤマハギなどが多い。林床にはミヤコザサが優占し、一部にはホザキシモツケの群落もみられる。草本では、ハンゴンソウ、ヨブスマソウなどの大型草本の生い茂る林床も認められ、低湿地には、オオブキ、エゾイラクサなどが優占し、所々にハルニレ、ミズナラ、ヤチダモなどの大径木がある。人工林は、カラマツ、トドマツ、アカエゾマツが主な造林樹種であり、小面積であるがバンクスマツ、ストロブマツ、ドイツトウヒ、チョウセンゴヨウなどの外国産樹種も造林されている。

調査方法は、仕事場へ自動車移動途中、調査のため林道を歩行中に哺乳類を目撃した様子をデータブックに集積し、大まかな行動様式を調査した。森林性の鳥類は主に昼行性であるが哺乳類は主に夜行性の種類が多いので、昼間でも見通しの良い場所に姿をさらすことは少なく、森林やヤブの中を行動することが多く、野外での観察は困難なことが多い。しかし、人が林道や歩道、さらに作業中に偶然出くわすことが意外と多く、このことに着目して上述の方法を採用した。この方法は手軽にできる有利性もある。また、北海道大学が1983年10月3日に標茶区で実施したエ

KAZUO NIMURA and Yoshihiro GODA

Sighting Records of Wild Mammals at Shibeche District of Kyoto University Forest in Hokkaido

ゾシカの夜間のライトセンサスに同行した。
調査記録紙の様式は下記のようなものである。

大型動物目撃記録	
	目撃者：
動物名：	
日時：	
天気：	
場所：	
目撃状態：	
1. 大きさと頭数（家族連れかどうか？）	
2. 何をしていたか？ （例：歩いていた・ミズナラの木に登っていた）	
3. もし移動していたら、どちらの方向へ行ってしまったか？	
4. もし食事をしていたら、何を食べていたか？	
5. その他、気づいたこと	

調査結果及び考察

1998年4月から2000年7月までの2年3カ月と1981年4月から1984年3月までの3年間の通算5年3カ月間に北海道演習林標茶区を中心に得られた目撃による観察で、エゾユキウサギ、エゾリス、エゾシマリス、エゾモモンガ、エゾヒグマ、エゾタヌキ、キタキツネ、ホンドイタチ、ニホンイイズナ、エゾシカ、ミンクの11種が目撃された。大多数が林道を自動車で行き中目撃されたものであった。以下にそれぞれの動物についての行動特色を述べ、目撃記録は別表にまとめた。

なお、北海道はアイヌ民族の人たちの歴史は古く、生活と動物の関わりが深いことからアイヌ語の動物名を永田¹²⁾、小田島¹³⁾により加えた。種の和名、学名、目録の配列順は今泉¹⁴⁾によった。

エゾユキウサギ *Lepus timidus ainu* BARRETT-HAMILTON イセボ（キイ鳴くもの）

個体数は少ない。目撃することはごく希で、主に雪上の足跡で確認できる。2000年2月22日に湿性の降雪があり、シラカンバ、ヤナギ類が極端に折れ曲がり地面に着いた小枝をウサギが採食した跡が多数見られた。多和地区の酪農家によれば、牧草をトラクターで刈り取るときに子ウサギが犠牲になることがあるという。

平川^{15), 16)}によれば1958年、十勝管内の幕別町で若い造林地に46個のククリワナを仕掛けたところ、10月末から2カ月間で96匹のウサギが獲れたといわれ、1ヘクタールに1匹ほどのウサギがいたことになる。また、全道で捕獲数が一番多かったのが1959年で、狩猟・有害駆除合わせて20万匹近いウサギが捕獲されたが、1995年は527匹で、捕獲数は36年間で0.3%以下になっていると述べている。さらに平川は、ウサギの減少理由に、捕食者のキタキツネの増加説があるが、年度別の人工林面積をあげ、北海道の拡大造林が1970年前後をピークに1995年度には十分の一以下に激減したことを述べ、ウサギと造林地はちょうど同じ時期に減少していると述べている。ちなみに標茶区でも1977年頃はカラマツの造林地も多く、ククリワナによる有害駆除では、雄3.7kg、雌3.5kgの個体が捕獲されている。

谷口氏によれば、1962～1965年の子供時代に家の近くでククリワナを仕掛けると、比較的よく獲れ、害獣駆除として役場に耳をもってゆくと1匹につき50円もらえたという。この頃は、天敵のキツネは少なく、珍しい方であったという。

エゾリス（きねずみ） *Sciurus vulgaris orientis* THOMAS

主に樹上で生活することが多いので木ネズミとして親しまれている。1981～1983年は、比較的目撃することは少なく、1998年以降は目撃回数も多い、特に構内で5月に成獣を3匹同時に見た

こともあった。

通年にわたり活動するため、餌の不足する冬期に備え貯食することで知られている。二村¹⁷⁾は、1998年9月に構内でオニグルミの実をくわえて貯食する行動を観察した。調べてみると構内の数カ所で貯食したと思われる実が発芽して伸びた若木が見つかった。さらに6林班に造成したチョウセンゴヨウ林でも同様に貯食した実が発芽した稚樹が見つかった。

谷口氏によれば、1962～1965年頃は、毛皮として1枚500円もの高値で売れたようである。

エゾシマリス（しまねずみ） *Tamias sibiricus lineatus* STEBOLD カスエクルクル（背中に縞をもったケモノ）

主に地上生活のため地ネズミとも呼ばれ親しまれている。1981～1983年には林内や構内でも時々見かけ、10月頃に冬ごもりに備え巣穴に餌をため込むため、活発に行動するので林道を横切るのをよく見かけた。川上氏によれば、木材の搬出作業の馬搬をしていた頃、馬の餌がエンバク（燕麦）であったため未消化の馬糞を食べにシマリスがやってきたという。谷口氏によれば、1962～1965年子供の頃、テグスを輪にして「リス釣り」をして遊んだという。シマリスはごく普通にみられ、天敵のキタキツネは、まれに見る程度だったようだ。また、上多和の酪農家によれば、以前牛舎には5～6匹程度のシマリスが住み着いていたが、現在ではこの場所には、25匹程度の飼いな猫が住んでいるのでシマリスは姿を消したという。

1998年以降は、林内で見かけることは少なく、個体数の減少は、林内で時々見かける天敵の野ネコの侵入によるものであろうか。

エゾモモンガ（ぼんどり） *Pteromys volans orii* KURODA アツ・カムイ（ごちゃごちゃいる神）

天然の洞やキツキ類の古巣をめぐら、巣穴として利用していることが多く、夜行性のため観察できることはごく希であり、個体数も少ないと思われる。住宅にモモンガが住み着いた人の話によると、冬になるとハンノキの冬芽を好んで食べ、食べ跡の細い枝を剪定をしたように地面に散乱させるといふ。また、飯島氏によればバンクスマツの葉を好んで食べ、さらに川上氏によれば森林の調査中によく見つかり、捕獲して飼育したところ穀類を好んで食べたと述べている。

エゾヒグマ *Ursus arctos yesoensis* LYDEKKER キムン・カムイ（山に在る神）

日本最大の陸生哺乳動物として知られている。目撃は3回で、2～3歳程度の若グマの単独個体が2回、成獣1頭と2歳程度の親子が1回であった。足跡、オオブキの食べ跡、腐った根株の掘り跡、糞などのフィールドサインを5回観察した。糞の内容物は、1998年7月はオオブキ、10月はミスナラの種子であった。また、エゾシマリス、ネズミ類の土中の巣穴を掘り起こした跡を見ることもある。さらに本学の北海道演習林白糠区（北海道白糠郡白糠町和天別）で、二村は1998年7月にオオブキの食べ跡を見つけ、その近くの林道で採集した糞からは多数のアリ類が多く含まれていた。また、1982年11月にトドマツの枯れ木の皮剥ぎ跡、幹に残された爪痕、さらにナナカマドの円座（木の実を食べるために樹上に大きな鳥の巣のように枝を集めたもの）を観察した⁹⁾。

標茶区を中心としたヒグマの行動圏とされる周辺地域との位置関係をみると、北西部の阿寒湖には直線距離で約40km、目撃記録のある釧路湿原には約20km、親子グマの目撃記録及び越冬穴が確認されているパイロットフォレストには約15km、厚岸町の道有林には約30km、さらに生息密度の高い知床半島の西端にあたる北東部の斜里岳には約50kmである。青井¹⁸⁾は、苫小牧市近郊で捕獲したヒグマに電波発信機をつけて行動調査をしたところ、移動距離はおおよそ80km、その面積はおおよそ650平方キロメートルにもおおよと述べている。このようなことからこれまで目撃情報等からヒグマの行動を推察すると、ベルト状に森林が残っている標茶区では定住の可能性は薄く、移動、採食、休息行動などで「緑の回廊（コリドー）」として利用していると思われる。

エゾタヌキ *Nyctereutes procyonoides albus* BEARD モユク・カムイ（小さな動物の神）

アジア大陸東部の特産種で、北海道だけに生息する亜種で、数は少ない。タヌキは里山のけものとして親しまれているが、小田島¹⁹⁾は、キツネや野犬に殺される例が多いことを述べている。標茶区ではきわめて個体数が少ないうえ夜行性のため目撃が困難である。1991年以降は目撃例は

なく、足跡なども見つかっていない。

キタキツネ *Vulpes vulpes schrencki* KISHIDA チロンヌツ (我々がどっさり殺すえもの)

通年、主に林道や牧草地、構内などで比較的良好に目撃できる動物のひとつである。林道で目撃した時に自動車の前を少し走り、路肩のヤブに逃げ込むことがある。林道の横断管を巣穴として利用して4匹が繁殖したことが二度あった。キタキツネはカラマツを食害するエゾヤチネズミの天敵として食物連鎖の中では重要な動物であるが、寄生虫による感染症の一種「エキノコックス症(多包条虫症)」を媒介するとして有害駆除されている。このような一方的な駆除ではなく、私たちは感染しないよう糞に汚染された沢水や山菜には熱処理するなど十分注意したいものである。また、居住地区の生ゴミの管理には十分注意してキツネを近づけないようにすることが大切である。

北海道で昼間でもよく見られる野生動物として道内を訪れる観光客には人気者で、おみやげ店でマスコットとしてよく売られている。斜里郡小清水町で永年キタキツネの研究をされている竹田津実氏によれば観光地でキツネの病死が集中していることをあげ、その原因は観光客が近寄ってくるキツネにスナック菓子等を与えることが多く、その弊害によって病死すると考えられると述べている。安易に与えた餌がキツネの命を奪っていることになる。これに対して、旅行社のガイドは餌を絶対与えないよう注意をしてもらいたいものである。

ホンドイタチ *Mustela sibirica itatsi* TEMMINCK

北海道には本来ホンドイタチは生息していなかったが、明治の頃、開拓の人が移住した時に荷物に紛れ込んでやってきたといわれ、さらに造林木や農作物に被害をもたらす野ネズミの駆除に放逐されたともいわれているが、住み着いた経緯は不明である。1981年5月17日、11林班に隣接した牧草地の小川で魚をくわえた個体を目撃した。近年は、野生化したミンクと競合して多和付近で見かけることはない。

ニホンイイズナ(コエゾイタチ) *Mustela nivalis namiyei* KURODA バイサチリ・カムイ(獲物を授ける神)

世界最小の肉食獣とされ、北海道では平野部から山地まで生息している。馬小屋に入り込んだイイズナを見て、馬がおびえて動けなくなった例もあるという。1982年10月28日、11林班の休憩小屋で休息中に、すぐそばまでやってきたことがある。これまで目撃記録が3回、構内の宿舎付近での捕獲例が2回あり、これらの2匹は、剥製標本になっている。行動が敏捷なため目撃は困難な場合が多いが、今後も注意して調査したい動物のひとつである。

エゾシカ *Cervus nippon yesoensis* HEUDE ユク(食べ物または獲物)

目撃初日は、1981年が4月12日、1982年が4月12日、1983年が4月13日、1998年が4月3日、1999年が2月27日、2000年が4月25日であった。このように1981年から1983年では、4月12日前後が初日であったことは興味深い。ちなみに高柳⁷⁾の調査によると、演習林では1990年4月13日が初日であり、二村らの目撃初日とほぼ一致することに注目したい。北海道におけるカッコウの初鳴きは、5月25日前後が多いことが知られているが、エゾシカでも越冬地からの移動時期がカッコウのように生態的に決まったサイクルがあるのであろうか。目撃終日は、11月末のことが多いが、これはこの時期は作業で山に出向くことがほとんどないため、実際にシカが林内に生息していないことではない。年によっては、12月下旬の雪の降るしけた日に移動途中と思われる雄ばかり5~6頭の小群を数カ所で目撃することもある。ただ積雪の少ない標茶区及び隣接地では足跡、採食跡などの痕跡は見られないことから、冬期間はどこかに移動するものと考えられる。現に冬期間は隣接地の五十石、塘路地区以南の釧路湿原周辺の丘陵地でよく目撃できることから、標茶区の個体群も近隣で越冬するものと思っていた。ところが北海道庁が行ったエゾシカのテレメトリー調査では、1997年4月に白糠郡白糠町庶路川上流部で首輪型電波発信機を装着したメスジカ(個体番号12、体重57kg、3歳以上)が標茶区内で夏(6~11月)を過ごし、さらに二村ら⁸⁾が加わり共同研究をしたところ、1998年6月にも標茶区に帰還し、冬は白糠町の越冬地に移動した。1999年6月に3回目の帰還をし、1頭の子連れであるところを目撃した。ところが

この個体は同年12月6日に越冬地に向けて移動したが、2000年1月8日におよそ25km離れた厚岸町内で狩猟されてしまいテレメータによる調査は終了した。この結果から標茶区で生息するエゾシカが、およそ56kmはなれた越冬地から51日かけて長距離移動し、夏期は標茶区で繁殖したことが確認された。従って標茶区にやってくる個体群の一部には、越冬地へ長距離移動する個体群もあると考えてよいであろう。

1998年5月の1カ月間に2、3、4林班の林道沿いの約3kmの間で13頭もの2歳程度のシカの死骸が見つかった。原因は、野犬に襲われたものと思われた。たいてい2～3日で野犬、キタキツネ、トビ、ハシブトガラスなどに食べつくされてしまう。さらに同年10月に1頭、11月に1頭の2歳程度のメスシカが被害にあった。このように短期間に15頭もの個体が被害に遭うことに注目したい。また、この場所以外の林内でも野犬が天敵として関与しているとすれば、さらに被害個体数も増すだろう。ちなみに標茶町では毎年野犬の掃討作戦を実施している。ただし、1999年以降はこのような状況は目撃されていない。

道東には、およそ12万頭のエゾシカが生息していると推定され、近年農林業被害が深刻化しており、北海道は、1998年からの2年間で6万頭に削減する保護管理計画に基づき、狩猟の制限を大きく緩めている。同時にシカ防護柵の取設がかなり進められた。本学の演習林白糠区でも3.1kmが取設されている²⁰⁾。ところが動物にとってこの柵が「けもの道」の分断につながり、2000年2月、白糠区6林班で雄シカ成獣1頭の角が金網に絡まり衰弱死した（古本浩望氏が確認）。ちなみに標茶区では、小規模ながらトドマツ、アカエゾマツの人工林に取設した防護柵は効果をあげている。また、構内の見本園のイチイ、トチノキも食害され、さらに家庭菜園に植えたジャガイモや収穫前のカボチャ、枝豆なども好んで食べられたこともあった。

ミンク *Mustela vison* SCHREBER

北アメリカ原産で毛皮獣として移入され、養殖場から逃げ出したものが野生化したものである。本多¹⁹⁾によれば、1927年に農林省がカナダから原種を輸入して札幌で飼育試験されたのが最初といわれ、1961年4月当時、全道で約4万匹が飼育され、さらに飼育場を逃げ出したミンクが農家のニワトリを一度に10羽も襲ったという例もあると述べている。現在でも北海道阿寒郡鶴居村には民間の飼育会社がある。

繁殖期に湿原を生息地に行っているタンチョウ、カルガモ、マガモ、アカエリカイツブリなどの卵や雛が食害されることが懸念される。これまで3回目撃したが近年では川岸で足跡を見ることも希になった。

まとめ

1998年4月から2000年7月までの2年3カ月と1981年4月から1984年3月までの3年間、通算5年3カ月間に在来種のエゾヒグマほか8種と移入種のホンドイタチ、帰化動物のミンクの計11種を目撃によって確認できたことは周辺部を牧草地に囲まれた標茶区がこれらの動物にとって格好の生息地であることがうかがえる。とくに大型森林動物のエゾヒグマにとっては移動・休息・採食行動のための「緑の回廊（コリドー）」として重要な森林といえる。さらに林木の被害はあるもののエゾシカにとっては、夏期の繁殖地としての役割を果たしている。また、キタキツネは、カラマツを食害するエゾヤチネズミの天敵として役割は大きい。

今後、これらの森林動物の個体数の推移を長期間にわたりモニタリングをすると共に、目撃例の少ないエゾタヌキ、ニホンイブナ、エゾモモンガの生息状況を詳しく調べるのが課題であろう。

引用文献

- 1) 岡部宏秋・光枝和夫・大牧治夫・西村正廣・菅原哲二・山本俊明(1983)北海道演習林標茶区における野ネズミの発生状況について。京大演集。16.1-10
- 2) 山内隆之・光枝和夫・岡部宏秋・山田容三(1987)北海道演習林標茶区におけるエゾシカ害の状況と防護法(1)。京大演集。17.14-20

- 3) 高柳敦・山田容三・柴田正善・山内隆之・大窪勝・木田政彦・松下幸司(1989)北海道演習林標茶区人工林におけるエゾシカ害の状況と防護法(II). 京大演集. 19.17-27
- 4) 高柳敦・山内隆之・柴田正善・松下幸司(1990)北海道演習林標茶区人工林におけるエゾシカ害の状況と防護法(III). 京大演集. 20.10-18
- 5) 松下幸司・高柳敦・山内隆之・大窪勝・谷口直文・柴田正善・山田容三(1991)北海道演習林標茶区人工林におけるエゾシカ害の状況と防護法(IV) - 同一造林地における被害の拡散過程について -. 京大演集. 22.28-44
- 6) 小山真希(1984)エゾシカの角研ぎによる造林被害の実態 - 京大演習林標茶区での被害集中地区の調査例 -. 北海道大学卒業論文.
- 7) 高柳敦・山内隆之・合田好廣・谷口直文・大窪勝・柴田正善・松下幸司(1992)北海道演習林標茶区におけるエゾシカ目撃記録. 京大演集. 23.10-21
- 8) 二村一男・中島皇・馬渡和則・櫻木まゆみ・伊吾田宏正(1998)北海道演習林(標茶区)におけるエゾシカのテレメトリー調査(予報). 演習林試験研究年報. 1998. 9-15
- 9) 二村一男(1986)エゾシカとエゾヒグマのフィールドサイン. 釧路市立博物館々報 No289. 87-89
- 10) 二村一男(1987)北海道演習林の鳥類相. 京大演集. 17. 1-13
- 11) 二村一男(1988)北海道演習林における鳥類相の季節変化について. 京大演集. 18. 1-13
- 12) 永田洋平(1977)新訂北海道動物記. みやま書房. pp246
- 13) 小田島譲(1982)北海道の野生動物. 北海道新聞社. pp246
- 14) 今泉吉典(1964)原色日本哺乳類図鑑. 保育社. pp196
- 15) 平川浩文(1999)千支にちなんで ウサギ昨今・東西. 北方林業. Vol.51.No1. 1
- 16) 平川浩文(1998年6月17日付北海道新聞)激減エゾユキウサギ
- 17) 二村一男・谷口直文(2001)京都大学北海道演習林標茶区におけるエゾリスの種子散布 - チョウセンゴヨウとオニグルミの事例 -. 演習林試験研究年報. 1999. 31-35
- 18) 青井俊樹(1998)ヒグマの原野. 森の新聞. 22. フレーベル館. pp55
- 19) 本多勝一(1996)きたぐにの動物たち. 実農之日本社. pp295
- 20) 二村一男(2000)道東地方におけるエゾシカをめぐるできごと - 新聞報道からみたワシ類の鉛中毒と鹿防護柵等 -. 演習林試験研究年報. 1998. 53-55

付 表

付表-1 エゾユキウサギの目撃記録(1977～2000年)

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1977.	5・7林班	害獣駆除(ククリワナ)で捕獲, 雄 2.7 kg, 2.5 kg
1981.8.28	上多和の道路	自動車に衝突したと思われる死骸1匹
1983.2.3	4林班	害獣駆除(ククリワナ)で捕獲, 雌雄不明約3 kg
1983.4.6	五十石の国道	自動車に衝突したと思われる死骸1匹(冬毛)
1999.2.3	8林班	林道脇の雪上で足跡
1999.12.22	構内	雪上で足跡をよく見かけた, 折れて落下した枝のシラカンバの花芽を食べた跡があった
1999.12.28	8・9林班	雪上で足跡, キツネの足跡が併走していた
2000.3.20	構内	雪上で足跡をよく見かけた

付表-2 エゾリスの目撃記録(1971～2000年)

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1971.	構内	餌台に1匹やってきた《古本浩望》
1981.5.11	1 1林班	ミズナラの樹上で1匹(冬毛)
1981.8.27	1 1林班	カラマツの幹を1匹が登って行った
1981.10.12	4・6林班	カラマツ林, 湿地林でキノコを食べていた
1981.11.16	4林班	林道で足跡, そばに野ネコの足跡があった
1983.3.20	3林班	林道脇のシラカンバの新芽を食べた跡が散乱していた
1983.10.26	1 1林班	1匹が枯れ木に登った
1983.12.15	1林班	ミズナラの立ち枯れ木で1匹
1998.4.7	構内	トドマツの幹で1匹(頬袋をふくらませていた)《谷口直文》
1998.4.14	構内	地上で1匹
1998.4.17	構内	地上で1匹
1998.5.5	構内	地上で貯食したと思われるオニグルミの実を3匹が樹上で食べていた
1998.5.7	4林班	1匹が地上にいて, トドマツに登った《中島皇》
1998.5.13	構内	地上で1匹
1998.5.31	構内	ニオイヒバの生け垣の中で1匹(夏毛)
1998.9.12-13	構内	2匹がオニグルミをくわえてニオイヒバの生け垣の中に運んでいた
1998.9.14	構内	地上で2匹
1998.10.9	4林班	林道で1匹が横切り, 木に登った。餌をくわえていた
1999.3.23	構内	我が家の餌台に1匹がやって来た(カボチャを食べた)
1999.10.27	構内	アカマツの樹上で1匹
1999.12.29	構内	1匹
2000.4.10	構内	ニオイヒバの生け垣で1匹

付表-3 エゾシマリスの目撃記録(1981～2000年)

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1981.5.5	1 1林班	丸太を積んだ所で1匹
1981.5.21	1 1林班	丸太を積んだ所で2匹
1981.6.15	1 1林班	カラマツ林で1匹
1981.6.19	1 1林班	丸太を積んだ所で1匹
1981.7.11	1林班	隣接の林道で1匹
1981.10.1	1林班	林道で野ネコがシマリスを1匹くわえていた
1983.5.1	2林班	林道を横切り土穴に入る1匹
1983.5.28	2林班	林道沿いで木の実を食べていた1匹

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1983.5.28	2 林班	林道沿いでチッチッと鳴いていた1匹
1983.6.5	多和	釧路川左岸の木の洞で1匹
1983.7.12	1 1 林班	ミズナラの枝伝いに1匹
1983.7.19	2 林班	林道を1匹が横切る
1983.10.8	1 1 林班	林道を1匹が横切る
1983.11.2	1 0 林班	チッチッと鳴いていた1匹
1983.6.11	2 林班	林道脇のハルニレの大木で1匹
2000.5.18	4 林班	林道脇の廃材を積んだところで1匹
2000.7.3	9 林班	林道を1匹が横切る
2000.7.11	9 林班	林道を1匹が横切る
2000.8.1	9 林班	林道を1匹が横切る
2000.8.2	1 0 林班	林道を1匹が横切る

付表-4 エゾモモンガの目撃記録(1981~1983年)

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1981.10.1	4 林班	ヤチダモの立枯れ木にあけられたキツツキ類と思われる巣穴で1匹
1981.10.4	4 林班	同所で1匹, ため糞があった
1981.10.6	4 林班	同所で2匹
1983.11.28	1 0 林班	湿地林のハルニレの立枯れ木のキツツキ類と思われる穴で1匹

付表-5 エゾヒグマの目撃記録(1981~2000年)

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1981.9.29	8 林班	林道で夜間(午後8時ころ)に2~3歳程度の1頭が自動車の前を15m程度走りやぶに逃げ込んだ
1998.9.13	1 1 林班	林道で2~3歳程度の1頭が自動車の前を横切った《伊藤真策》
1998.10.4	3 林班	林道を車で走行中に成獣1頭と2歳程度の1頭を目撃し, 林道を横切りカラマツ林に逃げ込んだ《合田好廣》
1998.12.10	1 1 林班	隣接地と林内で雪上の足跡を見つけた。足跡の様子から成獣1頭, 幼獣の1~2頭のものと思われた
1999.7.15	2, 8 林班	林道脇でオオブキの食べ跡
1999.7.15	9 林班	林道脇でオオブキの食べ跡
1999.7.15	4, 8 林班	林道上で糞を採集, 内容物はオオブキであった。糞の形状から200kg程度の成獣と思われた
1999.7.22	5 林班	広葉樹林内でミズナラの古株を掘った跡が見つかった
1999.10.18	2 林班	林道上で黒っぽい柔らかい糞が見つかった, 内容物は不明
1999.10.19	2 林班	同一場所付近で糞が見つかった, 内容物は, ほとんどがミズナラの種子の皮であった
2000.6.22	隣接地の弥栄	3~4歳程度の1頭が地元の人によって目撃された

付表-6 エゾタヌキの目撃記録(1971~1990年)

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1971.	3 林班	幼獣1匹を捕獲《古本浩望》
1990.	7 林班	天然林のダケカンバの洞で幼獣7匹を捕獲した《合田好廣》

付表-7 キタキツネの目撃記録(1981~2000年)

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1981.4.24	1 0 林班	林道で1匹, 糞もよく見つかった
1981.5.10	構内	1匹《山本俊明》

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1981.10.10	多和	牧草地で1匹
1981.10.27	9 林班	林道で1匹
1982.11.13	構内	1匹
1982.12.27	構内	雪上で2匹の足跡
1993.3.20	3 林班	林道の雪上で足跡
1983.5.16	4 林班	林道の横断排水管でキツネの子と思われる気配
1983.6.5	4 林班	同所で4匹の幼獣を目撃
1983.7.10	多和	鉏路川右岸で1匹（夏毛）が餌をくわえて通過
1983.8.8	構内	1匹
1983.8.19	構内	1匹
1983.8.30	構内	1匹
1983.9.6	構内	1匹
1983.9.13	構内	1匹
1983.9.26	構内	1匹
1983.10.1	構内	1匹
1983.10.7	1 1 林班	林道で1匹
1983.10.11	1 1 林班	同上の個体と思われる
1983.10.13	1 1 林班	同上の個体と思われる
1983.10.20	1 1 林班	同上の個体と思われる
1984.1.3	2 林班	林道の雪上で足跡
1998.6.23	3 林班	林道で1匹
1998.7.5	構内	夜間に1匹《千葉崇博》
1998.10.12	4 林班	林道で1匹
1999.10	1 1 林班	林道で1匹
2000.7.6	1 1 林班	林道で1匹
2000.8.3	1 1 林班	作業道で1匹

付表-8 ホンドイタチの目撃記録（1981年）

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1981.5.17	1 1 林班	隣接の牧草地の小川で魚をくわえていた

付表-9 ニホンイイズナの目撃記録（1982～1999年）

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1982.10.28	1 1 林班	休憩小屋で1匹がすぐそばまでやってきた
1982.11.4	9 林班	林道を1匹が横断した
1999.9.5	1 1 林班	隣接の道路で自動車の前を横断した

付表-10 エゾシカの目撃記録（1981～2000年）

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1981.4.12	多和	牧草地で雌2頭，子1頭
1981.4.16	多和	// 雌5頭
1981.4.28	1 1 林班	隣接の牧草地で午後4時頃，雌と子の母子群11頭（5頭は子）
1981.6.17	1 1 林班	雌1頭
1981.9.29	5 林班	林道で夜間2頭
1981.10.20	多和	牧草地で雌4頭
1981.10.23	多和	牧草地で雄1頭，雌2頭
1981.10.26	1 0 林班	天然林で雌1頭
1981.10.27	8 林班	林道で雌1頭，子1頭

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1981.11.1	1 0 林班	天然林で雄 1 頭(角は三又)
1981.11.2	4 林班	林道で 1 頭 (角は二又)
1982.4.12	3・4 林班	足跡が多数
1982.4.28	2 林班	造林地で雌 1 頭, 子 1 頭
1982.4.29	多和	牧草地で雌 1 頭, 子 1 頭
1982.5.24	多和	牧草地で雌 4 頭, 子 1 頭
1982.10.24	1 0 林班	天然林で雄 1 頭 (角は三又)
1982.10.30	1 1 林班	雄 1 頭, 雌 1 頭《内田喜七》
1982.10.30	1 1 林班	雄 1 頭, 雌 1 頭
1982.11.3	多和	牧草地で雌 2 頭, 子 3 頭
1982.11.25	2 林班	雄 1 頭 (角は三又)
1983.4.13	8 林班	林道で足跡
1983.4.24	多和	牧草地で雌 2 頭, 子 1 頭
1983.4.26	多和	牧草地で雌 2 頭
1983.5.16	9 林班	雌 1 頭
1983.7.16	1 林班	隣接地で雌 1 頭, 子 1 頭 (夏毛)
1983.7.19	2 林班	雌 1 頭 (夏毛)
1983.7.20	4 林班	ハルニレ, ヤチダモの新芽とツリフネソウの食べ跡
1983.9.6	多和	牧草地で雌 1 頭, 子 1 頭
1983.9.26	9 林班	林道で雌 4 頭の母子群
1983.10.7	9 林班	林道沿いをライトセンサス (午後 8 時頃) で雌 8 頭 (北大に同行)
1983.10.13	1 1 林班	天然林で雄 1 頭
1983.10.20	多和	牧草地で雌 4 頭, 子 1 頭
1983.10.25	1 1 林班	林道で雄 1 頭《谷口直文》
1983.11.1	8 林班	造林地で雄 1 頭, 子 (3 歳程度) 1 頭
1983.11.4	多和	牧草地で雄 3 頭
1983.11.7	1 1 林班	隣接の牧草地で雌 2 頭, 子 2 頭
1983.11.8	1 1 林班	隣接の牧草地で雌 1 頭, 子 2 頭
1983.11.10	多和	牧草地で雄 1 頭
1983.11.14	1 1 林班	隣接の牧草地で雄 1 頭, 雌 2 頭, 子 2 頭
1983.11.29	1 0 林班	湿地でウバユリの採食跡
1998.4.3	4 林班	雌 1 頭《谷口直文》
1998.4.6	7 林班	隣接の牧草地で 25 頭 (雌雄不明)《谷口直文》
1998.4.10	1 1 林班	隣接の牧草地で雌 7 頭
1998.4.13	3 林班	雌 1 頭, 子 2 頭《谷口直文》
1998.4.27	1 1 林班	隣接の牧草地で雌 1 頭
1998.5.1	3 林班	林道で雌 7 頭が横切る
1998.5.5	構内	午後 7 時頃 2 頭以上 (雌雄不明)
1998.5.7	4 林班	雌 7 頭
1998.5.13	4 林班	林道で 8 頭 (雌雄不明)
1998.5.13	7 林班	天然林で 7 頭 (雌雄不明)
1998.5.13	8 林班	作業道で雌 1 頭
1998.5.20	4 林班	湿地林にいた雌 5 頭がカラマツ林に逃げる
1998.5.20	8 林班	林道で雌 1 頭がカラマツ林に逃げる
1998.5.20	9 林班	作業道で雌 2 頭がカラマツ林に逃げる
1998.5.26	構内	雌 1 頭, 子 1 頭《千葉崇博》
1998.6.1	1 1 林班	雌 1 頭, 子 4 頭《馬渡和則》
1998.6.4	多和	牧草地で雌 10 頭《大窪勝》

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1998.6.4	8 林班	湿地林で 12 頭《谷口直文》
1998.6.5	1 林班	林道で雌 3 頭の母子群
1998.6.5	9 林班	林道で雌 4 頭
1998.6.8	多和	牧草地で子 1 頭《千葉崇博》
1998.6.8	3 林班	林道で雌 1 頭
1998.6.8	8 林班	林道で雌 1 頭
1998.6.8	9 林班	林道で雄 1 頭
1998.6.10	6 林班	林道で雌 1 頭
1998.6.10	1 1 林班	林道で雌 1 頭
1998.6.14	3 林班	林道で雌 5 頭, 子 1 頭
1998.6.16	1 林班	林道で雌 1 頭
1998.6.16	4 林班	林道で雌 7 頭
1998.6.16	1 1 林班	カラマツ林で雄 1 頭
1998.6.22	1 林班	雌 1 頭
1998.6.22	4 林班	林道で雌 2 頭
1998.7.4	3 林班	林道で 2 頭《千葉崇博》
1998.7.4	4 林班	林道で 1 頭《千葉崇博》
1998.7.9	8 林班	林道で雌 2 頭
1998.7.12	1 林班	林道で雌 1 頭がオオブキを食べていた《中島皇》
1998.7.12	4 林班	林道で雌 1 頭《中島皇》
1998.7.12	8 林班	林道で雌 1 頭《中島皇》
1998.7.12	1 1 林班	林道で雄 1 頭, 雌 2 頭《中島皇》
1998.7.13	4 林班	林道で雌 1 頭
1998.8.3	1 1 林班	林道で雌 1 頭《中島皇》
1998.8.9	1 1 林班	林道で雌 1 頭《中島皇》
1998.8.9	8 林班	林道で雌 1 頭, 子 1 頭《中島皇》
1998.8.9	1 0 林班	林道で雄 1 頭 (袋角)《中島皇》
1998.9.1	9 林班	林道で雌 2 頭《中島皇》
1998.9.3	4 林班	林道で雌 2 頭, 子 1 頭《中島皇》
1998.9.11	9 林班	林道で雌 1 頭《中島皇》
1998.9.11	1 1 林班	林道で雄 1 頭《中島皇》
1998.9.14	4 林班	林道で雌 2 頭, 子 1 頭
1998.9.29	9 林班	林道で雌 3 頭, 子 1 頭《馬渡和則》
1998.10.1	6 林班	林道で雌 2 頭《馬渡和則》
1998.10.8	4 林班	林道で雄 1 頭《伊藤真策》
1998.10.28	4 林班	雌 1 頭
1998.10.28	1 1 林班	雄 1 頭, 雌 1 頭, 子 1 頭
1998.11.30	多和	牧草地で雌 1 頭, 子 1 頭
1999.2.27	構内	雄 1 頭 (角は二又)
1999.3.16	構内	雄 1 頭
1999.4.14	1 林班	雌 7 頭
1999.4.15	4 林班	林道で雌 1 頭, 子 1 頭
1999.4.15	8 林班	林道で雌 1 頭
1999.4.23	3 林班	湿地林で雌 5 頭 (母子群か?)
1999.5.13	1 林班	雌 7 頭 (母子群か?)《大窪勝》
1999.5.16	1 0 林班	雌 7 頭 (母子群か?)《大窪勝》
1999.5.17	1 林班	林道で雌 4 頭 (母子群か?)
1999.5.17	8 林班	作業道で雌 2 頭

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1999.5.18	1 1 林班	カラマツ林で雌 3 頭
1999.8.3	1 1 林班	カラマツの林縁部で雌 1 頭,子 1 頭
2000.4.25	4 林班	雌 3 頭, 子 2 頭
2000.7.16	1 1 林班	隣接の牧草地で雌 5 頭, 子 2 頭 (夏毛)
2000.8.2	4 林班	林道で雄 1 頭(袋角の夏毛)
2000.8.3	1 0 林班	林道で 2 歳程の度雌 1 頭 (夏毛)

付表-11 ミンクの目撃記録 (1981 ~ 2000 年)

年月日	場 所	目撃状況《目撃者》
1982.3.15	釧路川左岸	1 匹が川岸で潜ってとらえたヤマメを食べていた
1983.5.29	多和	1 匹が池で潜って採餌していた
1983.8.6	釧路川左岸	1 匹が水中で採餌していた
1998.7.13	多和	1 匹が多和川付近の道路を横切る